

コミュニティ協議会との意見交換等のまとめ 個表（案）

緑町コミュニティ協議会

① 運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上

利 用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】午前9時30分から午後9時30分の開館時間だが、開館を待つ利用者がいる一方で、夜間の利用者が少ない。</p> <p>【工夫している点】利用者の利用状況を鑑みて、開館時間を30分前倒した。</p>
新 しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】世代を問わず、誰もが参加できるように「みんなの広場」という事業を実施している。</p> <p>【工夫している点】フラダンスや音楽鑑賞などテーマを決める時もあれば、テーマを決めず、自由に楽しめる場を用意し、気軽にコミセンに訪れるきっかけをつくっている。</p>
施 設の利用方法の工夫	<p>【現状】エレベーターが設置されたことで、車いすの方でも2階が利用できるようになった。地域ふれあいまつりでも、エレベーターができたことで、展示物を2階に設置することができるようになった。</p> <p>【工夫している点】部屋の出入りを容易にするため、スロープを用意した。</p>
情 報の提供	<p>【現状】コミセンだよりは担当の負担が大きく課題がある。</p> <p>【工夫している点】継続して情報発信をするために、掲載する情報量に応じて紙面の増減を柔軟に対応している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体 とコミセンとのつ ながりづくり	<p>【現状】地域ふれあいまつりでは、利用団体や地域の各団体に積極的に参加を呼びかけ、相互につながる機会をつくっている。</p>
地 域とコミセンの つながりづくり	<p>【現状】事業実施する上で、地域の様々な団体との連携に注力している。</p> <p>【工夫している点】地域ふれあいまつりでは、地域の保育園や高齢者施設による作品の展示などが行われている。また、青少協の協力を得て、子ども向けの事業（テニスコートを活用したイベント等）を実施している。また、第四中学校とのつながりについても防災訓練や卒業式・入学式へのコミセン委員の参加などがある。</p> <p>【特筆すべき成果】コミセンも参加して、町会や商店街など10団体程度の地域団体が集まって、地域課題について話し合う「緑懇談会」を実施している。最近では、バス停の位置が不便であったことから、懇談会で話し合っ、バス会社に話を持っていき改善につながった。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員 の人材充実	<p>【現状】子どもまつりなどのイベント実施時に、大学生にボランティアで手伝ってもらっている。</p> <p>【工夫している点】いきなり運営委員になってもらうことは難しいため、まずは協力委員になっていただいた後に運営委員になってもらうなど段階的に人材を集めている。若い人の中には、地域ふれあいまつりで焼きそばを焼くなどのスポット的な関わりであればできるという人も多いことから、まずは協力委員として参加からはじめてもらっている。また、地域ふれあいまつりに来てくれた若い参加者にも声かけを行っている。</p>
持 続可能な事業の 実施	<p>【現状】コミセンに来られない方にも協議会の事業を楽しんでもらうため、出前講座を開催している。</p> <p>【工夫している点】上記事業は、「地域懇談会」で出た意見を反映したものであり、コミセンを離れ、周辺の集会所で輪投げ大会や演奏会を開催し、地域に密着したコミュニティ活動を行っている。</p>
活 発な協議会運営	<p>【現状】毎月窓口会議を開催している。</p> <p>【工夫している点】気を付けることや、対応する上での疑問点などを話し合うことで、協議会全体で情報の共有や問題解決が適切にできている。</p>